

◆【第一章】一流メイドの性癖矯正

坊っちゃん、お食事中に失礼いたします。

本日のご予定についてお伝えさせていただきます。

本日も朝食を終え次第、12時まで自室にて前日の復習を中心にお勉強を。

昼食をとった後に、13時より坊っちゃん専属の教師の指導の元、18時まで再びお勉強のお時間となっております。

そして夕食をとった後、就寝までは自由時間となっております。

……そのお顔、^{わたくし}私の立てたこの予定を不満に思われていらっしゃるようですね。

勉強ばかりでつまらない、外で遊びたいと、そう言いたげなお顔をしていちゃいます。

……はあ。

いいですか、坊っちゃん。

私は、今は亡き貴方のお父上から、貴方の身の回りのお世話をするように頼まれました。

坊っちゃんが立派な当主となるように、傍で見守り、時に優しく、時に厳しく導いてやってくれ、と。

坊っちゃんが遊びたい盛りなのは理解しています。ですが、坊っちゃんが立派な当主となるためには1分1秒たりとも無駄にはできません。

ですから、本日こそはこっそり屋敷を抜け出さずに、きちんとお勉強をしてくださいね？

……バレていないとでもお思いですか？

何度も何度も、こうしてきつく申し上げているというのに……まったく、聞き分けのないお方です。

どうか、私の手を煩わせないでください。

……私は屋敷の掃除をしなければならないので、これにて失礼いたします。なにか御用の際は他のメイドにお申し付けくださいませ。

それでは、失礼いたします。

(一時間後、廊下を歩きながら)

……はあ。

まったく、坊っちゃんときたら……どうして私の言うことをきいてくれないのでしょうか。

……少し、傷つきます。

私はこんなにも坊っちゃんを想って、仕えているというのに。

坊っちゃんは、亡きご当主様の大事な大事な一人息子。

ご当主様の遺言は、必ず守らねばなりません。

……ですが、それ以上に……。

私自身が、坊っちゃんのことを……私好みの、立派な男性に、育てあげたいと……。
……いけません、メイドの身でありながら坊っちゃんにそんな感情を抱くなどあってはならないこと。
こんなことでは、他のメイドに示しがつきません。

(リリィ、便意を催す)

……ッ。
少し、催してきてしまいました。
朝より一度もお手洗いに行っておりませんし、今からお手洗いに向かうことにいたしますよう。
……そうです、ここから手洗いに向かう途中には坊っちゃんのお部屋がありますから、ついで……と言っては失礼ですが、様子をお伺いいたしましょう。
昨日のようにまた抜け出されていては、困りますからね。

(数分後、主人公の部屋をノック)

……坊っちゃん、リリィです。入ってもよろしいですか？
……返事が、ありませんね。
坊っちゃん？ 坊っちゃん、いらっしゃるのでしょうか？
私の声が耳に入らないほどに、お勉強に集中されている……なんてことは、ないでしょうね。
どうせ、また抜け出しているんでしょう。
……はあ。
坊っちゃん、入りますね。

(部屋の扉を開ける)

(リリィ、主人公がエロ本を見てオナニーをしている所を目撃する)

(少し慌てて)

……えッ！
あ……ぼ、坊っちゃん。
抜け出しては、いなかったのですね。
ですが、まさかこのようなことをなさっているとは。

(落ち着きを取り戻し、普段のようにクールに)

こほん……坊っちゃん、今はお勉強の時間でございます。

そのように、ペニスを扱くのは……自慰行為は、夕食後の自由時間にお願いいたします。

……はあ。

私のノックは、聞こえなかったのですか？

……ええ、確かに。

何度もノックをして、声をおかけしましたよ？

まさか……坊っちゃんまは私の声が聞こえないほどに、自慰行為に夢中になっていたのですか？

ふん……その集中力はこのような淫らな本ではなく、教科書に対して向けて欲しいものですね。

……気付いていないとでも？

坊っちゃんが咄嗟に机の下に隠した、その本です。

それを、私にお渡しください。

内容の確認をさせていただきますので。

……何をモジモジしているのですか。

早く渡してください。さあ、早く。

(主人公、エロ本を渡す)

(リリィ、ページをめくりながら)

ふむ……なるほど……。

……坊っちゃんま、これは、なんでしょうか？

坊っちゃんまは、女性の糞便がお好きなのですか？

……はあ。

ド変態ですね。最低です。

……坊っちゃんま。

これは、没収です。

こんなものをお勉強中に読んでいたなんて……信じられません。

まさか、女性の排便に……こんな、汚らしい行為に、ペニスをいきり立たせるとは……本当に、情けない。

……坊っちゃんま。

私は、自慰行為をすること自体は否定しません。

坊っちゃんまも、お年頃ですものね。

ですが……このような内容の書物を使うなど言語道断です。

大便、糞、ウンコ……そのようなものに興奮する悪癖は、私が矯正せねばなりません。

坊っちゃんま、私の手を……握ってください。

ふーっ……♡

ふーっ……♡

何をモタモタしているのですか……！

さっさと、握ってください……！

さぁ……早く……！

（主人公、リリィの手を握る）

そう……それで良いのです。

さぁ、着いて来てください。私が坊っちゃんまの悪癖を、矯正して差し上げます……！

（数分後、トイレの個室前にて）

さぁ……着きました。

どうぞ、共に中へ。

（トイレの個室に入る）

……いきなりお手洗いの個室へと招き入れられて、驚きましたか？

ですが……これも、坊っちゃんまの悪癖を矯正するためです。

さぁ、坊っちゃんま……いきます、よッ……フンッ！

（放屁）

ふう……いかがですか？

私の、濃厚な屁の臭いは。

我ながら強烈な香りですね。とても臭いです。

どうですか、坊っちゃんま？

私のお腹の中で熟成された特濃ガス、お気に召しましたか？

……なあって、そんなはずはありませんよね？

いいですか、坊っちゃんま。

女の屁や糞は、このように臭くて汚いものなのです。

絵や写真で見える限りであれば、そのようなことは伝わりにくいと思いますが、実物は……このように。

いくらド変態の坊っちゃんまと言えど、興奮よりも嫌悪が勝ることかと。

さぁ、坊っちゃんま。

坊っちゃんまがこれから先、そのような本をご覧になっても、私の汚臭が思い出されるように

徹底的にしつけて差し上げます。
さあ、いきますよ……ッ！
ふんっ、ふんっ！♡ふウんッ！♡

(放屁3連発)

はあ……♡
すんすん……んっ、これは、相当きついですね……。
密室で空気の逃げ場がありませんし、私のくっさい特濃ガスで窒息してしまいそうです。
ですが、これでわかりましたか？
屁や糞は汚く臭いもの、坊っちゃんの中での幻想は砕け散ったはずです。
……坊っちゃん、突然このような無礼を働いたことを、どうかお許してください。
これも、坊っちゃんのためを思えばこそなのです。
ですからどうか……おや？
……………。
……なんですか、ソレは。
……坊っちゃん、手をどけて、ズボンとパンツを降ろしていただけますか？
……はあ。
早く手をどけなさい。
このド変態の、エロガキ。
……やはり、勃起していましたか。
おかしいですね、私の屁の香りを嗅いでなお興奮が収まらないとは。
いえ……それよりももっと状況は深刻です。
坊っちゃん、正直にお答えください。
私の屁の香りを嗅いで、より興奮しましたね？
私の屁に……欲情、しましたね？
……そう、そんなことはない、ですか。
……ふんッ！♡

(放屁)

……坊っちゃんはド変態な上に嘘つきですね。
私は、坊っちゃんの悪癖を矯正すべく、臭い屁を何発も放ちました。
にもかかわらず、坊っちゃんは勃起し、先程私が垂れた屁に興奮して、気持ち悪くペニスをビクつかせている……これはいったいどういうことでしょうか？
……分かりました。

きっと、坊っちゃんを矯正するにはもっと強烈な刺激が必要なのですね。

坊っちゃん。

……私の糞を、坊っちゃんにお見せいたしましょう。

いくらド変態で、嘘つきで、最低の坊っちゃんであっても、糞ともなれば流石に嫌悪が勝ることでしょう。

……下着を下ろし、便器の上に足を乗せて……っと。

(リリィ、洋式便器の上でしゃがみこむ)

……どうですか、坊っちゃん。

このように、便器に足を乗せてしゃがみこんでやれば……肛門も、そこから出てくる糞も、よく見えますよね。

……ふん、途端に鼻息を荒げて、本当にド変態ですね。

さあ、坊っちゃん。

これから私は、この尻穴から糞をひり出します。

茶色く、太く、そしてとてつもなく強烈な香りを放つ糞です。

そんな汚物を、これから坊っちゃんの目の前でひり出して差し上げるのです……♡

くれぐれも……いいですか、くれぐれも私の糞でペニスを膨らませてはいけませんよ…
…?♡

さあ、いきますよ……ふッ!♡♡

(放屁)

ん、ほォっ!?♡

んっ、ぐう……お、オナラが、糞に押されて、勝手に……ッ♡

坊っちゃん……ペニスを、そんなにビクつかせて……♡

やはり……お好きなんですね……私の屁が……♡

ふふふっ、やはり最低の、ド変態です……本当に、気持ち悪い……♡

では、もっと強烈な一発をお見舞いして差し上げます……!♡ふんっ!!♡

(放屁)

ふうう……♡

あ～、いいです、降りて、きました……ッ♡

この腹の、下の方に……ずっしりとした、糞が……んぐっ!♡

さあ……!♡

い、今、私の尻穴から……♡
糞が、糞が、出てまいります……ッ！！♡
坊っちゃん、目を離してはいけませんよ……！♡
私の尻穴から糞が出るところ、きちんと見つめて、矯正するのです……ッ！♡
おおっ、ぐるっ、くるくるっ、きますっ！♡
く、糞を……ウンコを、坊っちゃんの目の前で、ひり出してしまいますっ！♡
坊っちゃんっ！♡ふーっ！♡ふーっ！♡ふーっ！♡
見てて、ください……！♡
坊っちゃんが大好きなウンコっ、出してしまいますよッ！♡
んぐっ、おおおおおおッ！♡

(脱糞)

おほオゝ ～～～っ！？♡
はひィ♡ほっ、おゝ お～～……ッ♡
太い便が、みちみちとお……ッ！♡♡♡
そ、それに、これっ、臭すぎます……うんっ！！♡
おゝっ♡気持ち、いい……っ！♡
フンッ、ううんッ！！♡
あゝ ～出るッ、出てしまいますっ♡
糞を、坊っちゃんの目の前でブリブリとお……！♡
ふんっ！♡ふん……ぐうっ！♡
ほおお～～～……ッッ！♡

(脱糞終了)

ふー……ふー……♡
し、失礼しました。
つい夢中になって、下品な声を、お聞かせしてしまいました……。
ですが……そんな声を上げながら糞をひり出す女を見てしまえば、もう二度と屁や糞で興奮など……ん？
……おや、これは。
坊っちゃん……ペニスの先端から、雫が零れております。
これは……我慢汁、ですか。
ということは、坊っちゃんは私の糞を見て……あんなに臭くて汚いモノを見て、興奮してしまった、ということですね……？

はぁ……まったく、大したものですね……。

本当に気持ち悪い、最低最悪です。

どうやら、坊っちゃんその悪癖はペニスにこびりついてしまっているようですね。

これでは、矯正なんてできません、手遅れです。

……はぁ。

坊っちゃん。

私はもう、諦めました。

坊っちゃんが尻と糞に興奮する性を捨てられないのであれば、私はその欲望を満たすために尽くすだけです。

手淫を、して差し上げます……♡

(手コキ開始)

メイドが出したウンコをオカズにして、そのメイドに手コキされる……その状況に、興奮しているのですか？

(囁き)

ド変態。

クソ狂い。

最低。

最悪。

チンポとクソに脳みそ支配された、エログキ。

さぁ……坊っちゃん。

糞に、出してください。

私の糞に、真っ白なザーメンでマーキングするのです。

このウンコは自分のものだぞって、自慢するみたいに……。

私が糞を出している姿を思い出してもいいですよ。

だからさっさと、射精してください？

……途端に鼻息が荒くなりましたね。

ああ、本当に、最低……。

ほら、早く出してください。

さっさとイケ……♡

出せ……！♡

イケ……ッ！♡

(囁き終了)

(射精)

……ふん。

本当に、坊っちゃまったら……。

はい、びゅっびゅー……びゅー……。

はぁ……気持ちよかったですか？

こんなに大量に射精するなんて……まさか、ウンコを孕ませるおつもりなのですか？

いいえ、嘘はいけません。

こんなに大量に、濃いザーメンをぶちまけたのです。

信じ難いですが、本気で私のウンコを孕ませようとしたとしか思えません。

ウンコに本気の種付け射精をするなんて……ふん、正気かどうか、疑いますね。

…………坊っちゃま。

……私の糞、また、見たいですか？

必死に頷いて……ふん、そうですか。

でしたら、これからは真面目にお勉強に取り組んでください。

その頑張り次第では、またこうして糞を見せて差し上げます。

坊っちゃまにとっては、それが一番のご褒美となるでしょう。

……お勉強、頑張れますか？

……ああ、坊っちゃま……。

本当に、坊っちゃまは救いようのない、ド変態です……ふふふ♡

◆【第二章】一流メイドのご褒美オナラ

(数日後)

失礼いたします。

坊っちゃん、先日のテストの結果をお聞きしたく思います。

答案用紙を、私にお見せいただけますか？

……おや？

普段であればまだ返却されていないだの、失くしただのと言って誤魔化す坊っちゃんが…
…。

今回は、素直に答案用紙を私に見せてくださるのですね。

では、拝見させていただきます。

……なるほど。

全てのテストにおいて、ほぼ満点とは。

意気揚々と答案用紙を見せてきた理由はこれでしたか。

頑張ったのですね、坊っちゃん……とても、偉いですよ。

私は知っておりました、坊っちゃんはやればできる子であると。

……しかし、何故急にお勉強に励もうと思われたのでしょうか？

何か、きっかけでも……？

(主人公、ご褒美をねだる)

……え？

はぁ……本当に、救いようのないド変態ですね。

私の糞が目当て、でしたか。

ええ確かに、先日私は坊っちゃんに言いました。

お勉強を頑張れば、また糞を見せて差し上げますと。

ですが、そのためにここまで勉学に励むとは。

そんなに私の糞が見たいのですか？

……ふん、そんなに必死に願いて。

かしこまりました。それでは、ご褒美を差し上げます。

坊っちゃん、私に何をして欲しいのか、何なりとおっしゃってください。

……え？

至近距離で、オナラを嗅ぎたい？

……正気ですか？

あの臭いオナラを……至近距離で？

……気持ち悪い。本当に、気持ち悪いです、坊っちゃん。

正直、ドン引きです。

ですが……いいですよ。

お望み通り、オナラを嗅がせて差し上げます。

ん……♡

ほら、坊っちゃん。もっと、私の近くへ。

……何をしていますのですか。

オナラを、嗅ぎたいのでしょうか？

ならばもっと、私のお尻に近寄ってください。

私のスカートの中に、坊っちゃんを招き入れて差し上げますから……♡

……はい、そうです、坊っちゃん……♡

そのまま、スカートの中へ、どうぞ……。

(主人公、リリィのスカートの中へ入る)

さ、私のお尻に、顔を近づけてください……♡

んん……っ♡

あ……出る、出ます……！♡

んっ……♡ふううんッ！♡

(放屁)

はあ～……ッ！♡

くさあいオナラが、坊っちゃんのお顔に、直撃して……ッ♡

どうですか？

これが私のオナラです……！

ほら、もっと嗅いでください……ッ♡

まだまだ、出ますからね……！♡

(放屁)

ふううん……ッ！♡

あ～……出る出る、止まらない……っ！♡

んっ、んうう～～……ッッ！！♡

(放屁)

はああ……♡

……おや？

坊っちゃん、どうなさいましたか？

そんなに暴れてはいけませんよ、坊っちゃんがお望みになったことでしょう？

……もしかして、私のオナラ……想像以上の香りで、驚いてしまわれたのですか？

……ですが、今更やめることなどできませんよ。

ほら、逃げないでくださいませ。

そうやって、お逃げになるのなら……ふんっ！

(押し倒し、顔面騎乗)

こうして押し倒し、尻肉で顔面を押し潰し、逃げられないようにしてあげます。

ほおら、坊っちゃん。

くっさいの、もう一発、いきますよお……ッ！♡

(放屁)

ふううん……ッッ！♡

あ、これ……！♡

また、何発も、出る……ッ！♡

んっ！♡はあ……ッ！♡

んうっ！♡ああっ！♡

出る出るでるでるウゝ ～～……ッッ！♡

おオゝ お～～……ッ！♡

(放屁)

んっ、ふううう～～……ッ♡

はふう……ッ♡

ん……っ、どうでしたか？ 私のオナラの臭いは。

あ、答える必要はありません。

坊っちゃんの『ココ』を見れば、その答えは明らかですから。

そうですよね、坊っちゃん……。

こんなに猛々しく、ズボンに TENT を張って。

とても窮屈そうです。今、解放して差し上げますからね……？

(主人公のズボンとパンツを脱がす)

ッ……！♡

これは……ふふ♡

どうしたのですか？

プルプルと、ペニスが震えて……ああ、そうですね。

私のオナラ、大好きな香り、そんなものに包まれていては、こうになってしまうのも無理はありません。

ですが……！

ふんっ……！

(放屁)

私が屁を垂れる度に、激しく震えて汁を先端より零す姿は、見苦しいです。

ですので、こちらの方も、私が面倒を見て差し上げましょう。

(足コキ開始)

……坊っちゃん、この感触、分かりますか？

何かが、ペニスを挟み込んでいますよねえ？

ほら、答えてください。さあ、さあ……！

……ああ、そうでした。

私の尻に押しつぶされて、喋れないのでしたね？

……正解は、足の裏ですよ。

私の足の裏……右と左の足で、坊っちゃんのペニスをサンドイッチ……挟み込んで、いるのです。

うわ、ビクビクと跳ねて汁を撒き散らさないでください。

本当に、救いようのない変態ですね……♡

いいですか、坊っちゃん。

これは、けして坊っちゃんにご奉仕している訳では無いのですよ？

足の裏で……地面を踏み付けるように坊っちゃんのペニスを踏み、扱う……これは、屈辱的な行為ですらあるのです。

なのに坊っちゃんは、それに喜んでビクビクとペニスを跳ねさせる……。

気持ち悪い……♡

ほら、もっと強く扱ってあげますよ。

ほおらッ！♡

(足コキ)

どくんと脈打ち、我慢汁が溢れてきましたね。
気持ちよすぎる、ということでしょうか？
ふふ……情けないですね♡
そんなに足コキが気持ちいいのですか？
坊っちゃん……私の足と、オナラ……どちらが好きですか？
……ふふ、意地悪な質問でしたね。
……もちろん、どちらも、ですよ？
ならば……！
あはッ♡ほらほらっ！♡ほらほらほらッ！♡
ふうんっ♡ふんっ！♡ふんんッ！♡

(放屁)

どうですか？♡
私の足の裏とオナラのマリアージュ、気持ちいいでしょう？♡
ほおらっ！♡きったない我慢汁が飛び散っていますよ？♡
私の足の裏に、坊っちゃんの我慢汁がべっとりと纏わりついて……♡
ヌルヌルして、最高に気持ち悪いです……！♡
ほらっ、オナラのおかわりです、よっ！♡

(放屁)

はあああ……ッ！♡ また、出るう……♡
ほおらっ、坊っちゃんももっと腰を突き出してください♡
私の足の裏をオナホールのように扱って、思う存分腰を振ってくださいな♡
ほらっ！♡ほらっ！♡ほおらっ！♡

(放屁)

んっ！♡んううっ！♡
ああ～……っ！♡
坊っちゃん？ こんなことしてくれるメイドは、私しかいませんよ？

いいですか、坊っちゃんま……ッ♡

こんなことが出来るのは、世界中探しても私だけなのです……っ！♡

だから……感謝を、感謝を、伝えてください……ッ！♡

ほおら、早く……！♡

(アナルクンニ開始)

んひっ！？♡

はああ～……ッ！♡

あはあ……♡

誰が、舐めてもよいと、言いましたかあ……ッ？♡

感謝の証として、下着越しとはいえ、私の尻穴を舐めるなんて……！♡

頭おかしいんじゃないですか……？♡

この、クズッ♡

(放屁)

おおおゝ～……♡

この感じい～～……ッッ♡

あはあ……♡私のケツ穴、オナラぶちまけてもッ……なお、舐めてくださる、なんて……♡

本当に、救いようのないド変態、なのですねえ……ッ！♡

そんな変態は……下着越しなんかじゃ、満足できないでしょう……？♡

ほら……下着脱がせて、私の生ケツ穴、舐めてください……♡

これはご褒美ですから、気持ち悪いド変態の坊っちゃんに、慈悲を与えて差し上げます♡

さ、ほら、脱がしてください……♡

そして、ケツ穴に必死にむしゃぶりつくのです……！♡

(主人公、クンニ中断、リリィの下着を脱がす)

ん、そうです、よく出来ました……♡

あ～出る、また出ます……ッ♡

ふんっ！♡ほお、ら……ッ！♡

(放屁)

はああ～～……♡

臭いに惚けるのもいいですが、ケツ穴クンニも、忘れずにお願いしますよ……？♡

(アナルクンニ再開)

そうです、じょうず……ん、おお……ッ♡

坊っちゃんまの舌あ、私のケツ穴にぴったりとくっついてえ……♡

ふふ、中々良い心地、ですよお……ッ！♡

(放屁)

あゝ ～～……♡

はあ……♡

ん～……？♡

おやおや、坊っちゃんま……！

ペニスが、益々震えて……我慢汁も先程より、多くなっておりますよ……？♡

もしかして……♡

もう、出ちゃいそうなんじゃないですか？♡

私のオナラを嗅ぎながら、ケツ穴舐めて……ふふ、変態すぎます♡

本当に、恥知らずな坊っちゃんま……♡

そんな坊ちゃんまはあ……♡

(足コキ加速)

さっさと、出してしまいなさいッ！♡

ほおらっ！♡オナラもっ！♡

(放屁)

出して、あげます……ッ！♡

あ、こらっ、なぜ尻穴を舐めるのをやめているのですかっ！

ケツ穴クンニも、忘れずにお願いしますっ♡

でないと、イかせてあげませんよおッ！♡

(放屁)

んうっ、坊っちゃんまの舌が、私の尻穴に吸い付いてえ……♡

んっ♡んふう～～……ッ♡おゝ お～～……ッ！♡

出る出る出るウッ！♡

オナラ出るッ！♡

ほおら、イケッ♡ 私のオナラに塗れながら、無様にイってください……っ！♡

私も、んふっ、ふーっ、ふーっ！♡

一緒にイって、差し上げます……！♡

これはッ、メイド、メイドとして、坊っちゃまだけイかせるのは、失礼にあたるからであって……！♡

本気、本気で坊っちゃまのケツ舐めに感じているわけでは、ありませんから、そのつもりで……ッ！♡

あゝ ～～……濃いのが出るッ♡

くっさいの、腹の奥から吹き出るッ！♡

坊っちゃま？♡

臭すぎて気絶なんて、しないでくださいねぇ？♡

もちろん、吸いこぼすなんてことは、許しませんよお……？♡

ぜんぶ、吸いきってください♡

もしも吸いきれずに臭いが漏れたら、その時はお仕置ですから、覚悟してくださいね……！♡

♡

ほ、らアッ！♡イケっ！♡

坊っちゃまッ！♡イケっ！♡

イケ、イケっ！♡

メイドのオナラと足コキに蕩けて、出せえ～～ッ！！♡

(射精、放屁、絶頂)

おゝ、おおお～～……ッッ！！♡

ほおらっ、ほおらあ……！♡

んふ……ッ！♡はああ～……ッ♡

あは♡すごい量が、出て……！♡

んんッ……！♡

坊っちゃま……♡

くさい、ですか……？♡

んふ、んふふふふ……ッ！♡

はあ……はあ……はあ……♡

んふ……あはッ！♡

そんなに必死に、私のオナラを吸って……お仕置が、怖いのですか……？♡

でも、残念でしたね？♡

私のオナラ、吸いきれていませんよ？

お部屋の中、坊っちゃんまが吸いきれなかった私のオナラ臭で満ちています……♡

ですから、これはお仕置決定です。

当然でしょう？

ほおら坊っちゃんま、お口開けてください♡

ほら、ほおら、早く、早く……！♡

……ふふ♡

そうです、お上手です♡

これなら……私の小便器として、使えそうです……♡

……はい？♡

ああ、聞き間違いではありませんよ。

おしっこ、して差し上げます……♡

イキ潮混じりの小便です♡

オナラとウンコが大好きな坊っちゃんまですもの、小便も、どうせ大好きなのでしょう……？

♡

それでは……失礼しますね……？♡

んっ！♡

んうう～～……ッッ♡♡

(放尿)

ふうう～～……♡気持ちいい～～……♡

ふふ、しっかりお飲みください♡

私特製のおしっこでございますよ～～……♡

アンモニア風味に仕立てたメイド特製レモンティー♡

ホカホカの湯気が立ち上り、とてもいい匂いでしょう……？♡

なあんで……ふふ♡

さあ坊っちゃんま……♡沢山、お飲みください……♡

んふふ、そんなに私のおしっこに夢中になって、ごくごく……♡

本当に、ド変態ですね……♡

これでは、お仕置にならないではありませんか……♡

んっ……はあ……♡

(放尿終了)

……ふう。

本当に全部飲みきってしまいましたね。

美味しかったですか？♡

ふふ……♡

さて、ご褒美はこれでおしまいです。

明日からも、勉強にお励みください。

……はい？

まだ、ウンコを見ていない？

……言ったでしょう、お仕置をすると。

おしっこがお仕置にならなかった以上、他のお仕置をご所望なのでしょう？

ですから……ウンコは見せてあげません。

それが、オナラを吸いきれなかった坊っちゃんに対する、何よりもの罰となるでしょう…
…？

さて、少し汗をかいてしまいましたから、私は湯浴みをしてきます。

……そんなに絶望した顔をしないでくださいませ。

心配しなくても、またご褒美はあげますよ。

その時に、糞を見せて差し上げます。

ですから……またお勉強、頑張ってくださいね？♡

それでは、失礼いたします……♡

◆【第三章】一流メイドの嫉妬尻穴野外交尾

(数日後)

坊っちゃん、本日のご予定についてお伝えさせていただきます。

本日は普段の日程とは異なり、街に出て坊っちゃんのお洋服を仕立ててもらいます。

もちろん、世間知らずの坊っちゃん一人では何もできないでしょうから。私が付き添います。

ええ、そうです。二人きりです。

私以外のメイドが着いていく理由が、何かありますか？

……まあ、お洋服を仕立てた後は自由時間となっておりますので、共に街を巡ることにいたしましょう。

時間が許す限りではありますが、映画やお食事、お買い物などをお楽しみください。

では、早速参りましょう。

坊っちゃん、私の手を握ってください。

……どうしたのですか？ さあ、早く。

……ああ、なぜ手を握る必要があるのか、疑問に思っているのですね。

前に街に出た時のことは、覚えていますか？

あの時のように、迷子になられては困るからですよ。

色んなことに興味があるのは良いですが、夢中になるあまり私とはぐれてしまっは大変です。

ですから、ちゃんと手を握って、迷子にならないように捕まえておく必要があるのです。

さあ早く、私の手を……♡

(手を握る)

そうです、そのまま私の手を握っていてくださいね。

では行きましょうか。坊っちゃん……ふふふ♡

(数時間後、街に到着し服を仕立て終わる)

お疲れ様でした、坊っちゃん。

採寸や生地選びなど、滞りなく終わったようで何よりです。

おや……少し、疲れてしまったようですね？

でしたら、どこかで休憩しましょうか。

……たしか近くに評判の良い喫茶店があったはずです。

そこへ行くことにいたしましょう。

……それにしても、坊っちゃん。

(優しい声色で)

少し、背が伸びていたのですね。

幼少期から坊っちゃんをお傍で見守ってまいりましたが、こうして成長を実感するとやはり嬉しく感じます。

採寸をしてみると、改めて坊っちゃんが成長していることがわかって……とても、嬉しいです。

……うん？

いつもと違って、優しい？

私が、ですか？

(いつもの態度に戻る)

……坊っちゃん。

私は坊っちゃんを律し、正す立場です。

坊っちゃんが誤った道を歩もうとするならば、それを正すのが私の役目。

よくよく思い出してください。

私が坊っちゃんに厳しく接するのは、坊っちゃんがなにか良くないことをした時だけでは？

そ、それに……。

(小声で恥ずかしそうに)

今日は、特別な日です。

坊っちゃんと二人きりでデートできる、貴重な日です。

私も少し、舞い上がっているのかもしれません……。

(いつもの態度で)

……うん？

坊っちゃん、私の話をちゃんと聞いていたのですか？

そんなにボーッとして、何かを見つめて……。

珍しいものでもあったのですか……って。

(主人公、露出度の高い女性に見蕩れる)

ッ！？

(少し怒った様子で)

……坊っちゃま。

何を、見ていたのですか。

あそこにいる、痴女のような格好をした女を、見ていたのですか……？

まさか、あんな女に見とれて、私の話を聞いていなかったのですか……！？

隣に私がいながら、よりもよってあんな女に、うつつを抜かしていたのですか……ッ！？

……許せません。

坊っちゃま、こっちを見なさい。

ほら……早くこっちを、見なさいッ！♡

(無理やり自分の方を向かせてディープキス)

んちゅ……♡

ふうっ……ちゅっ、ちゅるっ、んっ♡

れるれるれる……ッ、ちゅっ、ぷはっ♡

はあ、はあ……ッ！♡

こっち、来てください。

そう、路地の奥です。

ここだと人目があります、少し場所を変えますよ。

(路地裏にて)

……はあっ、はあっ♡

ここなら……大丈夫そうですね。

さあ坊っちゃま……舌を、突き出しなさい。

抵抗するな、早くしろ……ッ！♡

(ディープキス)

んっ、ちゅう～っ！♡ んむっ！♡

はふっ、んふう～～ッ！♡

れろっ、れるっ、ちゅっ♡

ぷはあ……っ♡

あはっ……♡

もう目がとろんとしてるじゃないですか……♡

そんな顔をしてもダメですよ？

私は今、とても怒っているのです。

だから、他の女を見つめていた坊っちゃんを、お仕置しなければいけません……♡

そこに、しゃがんでください。

ほら、早く……！♡

……ふふ、いい子ですね……そうです、ちょうどいい高さになりました♡

それではお仕置と行きましょうか。

そお、れっ！♡

（お尻を顔面に押付け、壁と挟み込む）

ふうー……ッ♡

ちょうどいい高さにお顔がありますから、こうしてお尻で顔面を押し付けて、壁とサンドイッチしてやれば、簡単には動けませんね？♡

そのまま大人しくしててください。

お仕置、開始です……ッ！♡

（ぐりぐりとお尻を顔面に押し付ける）

このッ！

私の尻と糞で興奮するッ！

ド変態の癖にッ！♡

私を差し置いて、あんな女に目移りするだなんて……！♡ 坊っちゃんには再度、教育が必要なようですね……ッ！♡

ほおらっ！♡ 出しますよ……？♡

んっ、んう〜っ！♡

（放屁）

あゝ〜〜〜……ッッ！♡

あはッ♡出ました……♡

おなら、出ちゃいましたあ……♡

んふふ……ッ！♡

もう、そんなに暴れて……♡

私のお尻、自分で言うのもなんですが、かなり大きいからです。

そんなお尻に押しつぶされれば、坊っちゃんの貧弱な身体では、抜け出すことなんてできないでしょう？

ほおら、無駄なあがきはやめて、私のオナラの臭い、堪能してください……ッ♡
んっ！♡んんっ！♡
ほおらッ！♡いっぱい吸ってくださいッ！♡
あゝッ！？♡また出るっ……！？♡♡
ふんう～ッッ！！♡♡♡

(連続放屁)

あはあああ～～～……♡くうう～～……っ♡
もう、坊っちゃまったら……♡
お尻の下でバタバタ暴れて、尻肉と屁で窒息してしまいそうなのですか？♡
ふーん……そうですか♡
……ん～？
解放なんて、しませんよ？
苦しいのなら、それでこそお仕置の意味があるというもの。
ほらっ、窒息しろっ♡
私の尻に押し潰されて、窒息死しろっ♡
お仕置ですもの、坊っちゃまが泣き叫んでもやめませんからね……？♡
おゝッ！♡

(放屁)

んふ……ほおら……♡
どおですか？♡
頭、クラクラしてきたでしょう？
メイドの尻で窒息死なんて、屁と糞が大好きなド変態の坊っちゃまには、お似合いの末路で
すねえ？♡
ほら、もっと嗅いでください……♡
ほおらっ！♡

(放屁)

んふ……ふう～……♡
……ん？
おや♡
おやおや♡

んふふ、坊っちゃまったら……♡

ほら……尻肉、どけてあげます♡

(尻を押し付けるのをやめる)

さ、坊っちゃま……ご自分の股間を、ご覧ください♡

んふ……♡

なんと……なんとご立派なお勃起でしょう……！♡

死にそうになって、坊っちゃまの生存本能が働いたのでしょうか？♡

オナラで死んじゃうよ～っ、せめて目の前の女に種付けしてから死にたいよ～って、ビンビンにガチ勃起♡

んふふ……♡

坊っちゃまは他の女にうつつを抜かしていましたが、坊っちゃまのココは、誰に求愛すべきかハッキリ理解しているようですね……？♡

……坊っちゃま、ご自分のチンポに感謝してください。

このチンポに免じて、お仕置はもうおしまいです♡

これからはあ……んふふ♡

チンポ、私のケツ穴で、可愛がって差し上げます……♡

このチンポは、私のオナラでこんなにも元気になってしまわれたのです♡

だから、手や口ではなく、ココ……♡

先ほど尻をブウブウと垂れたこのクソ穴で可愛がって差し上げることを、お望みのはずです♡

違いますか？♡

……ふふ、それなら良かったです♡

さあ、お立ち下さい。

そして、ズボンを脱いで……チンポを露出させて……。

(主人公、ズボンとパンツを脱ぎ、立つ)

そう、そうです♡

坊っちゃま、そのまま立っていてくださいね？♡

私が、入れて差し上げます……♡

下着をずらし、ケツ穴を露出させて……。

ほおら、見えますか？♡

私のケツ穴に、坊っちゃまのチンポが、あてがわれ……っ！♡

わかりますか……っ、くぱくぱと、ケツ穴がチンポをねだっております……♡

はあ〜〜〜……♡

もう我慢できないです……ッ！♡

入れます、入れますよ……？♡

んっ、んゝ うう〜〜……チンポ、入る……ッ！♡

(アナル挿入)

んあゝ あ……っ！♡

ふう、ふうーッ……！♡

はあっ、んく、はあ……っ！♡

全部、入っちゃいました……♡

あゝ ッ！♡おゝ お〜〜〜〜……ッッ♡

(放屁)

ふふ……♡

お迎えのオナラが、漏れてしまいました……♡

それだけ、坊っちゃんまのチンポが私と相性抜群ということです♡

さあ坊っちゃんま、動きますよ？♡

あまりに気持ちよくて、腰を抜かさないでくださいね……？♡

(ピストン開始)

んおおゝ ッ♡はあ、はあ……っ！♡

どうですか、坊っちゃんま……っ♡

私のアナルは気持ちいいですか……？♡

あはっ……！♡必死に頷いて……♡

そんな一生懸命に頷いちゃってえ……かわいいですねえ？♡

ほら、もっとケツ穴締めて、腰を振って差しあげますから、ちゃあんと味わってくださいね？♡

(ピストン激しく)

おほおおゝ 〜〜ッッ♡

坊っちゃんまっ！♡

坊っちゃんまチンポいいっ♡

ディルドとは違うっ、ナマモノチンポ……ッ！♡
オナラを嗅いで、こんなにバキバキに勃起してしまう変態チンポっ♡
ケツ穴でご奉仕できて嬉しいです……ッ！♡
坊っちゃんまの綺麗なチンポに、私の汚いケツ穴の味を教え込んでしまいましたぁ♡
あゝ~~~~♡またオナラ、出るううう~~~~ッッ♡

(放屁、射精)

……は？
チンポ、脈打って……。
まさか、射精してしまわれたのですか……？
何、勝手に出してるんですか。
……気持ちよすぎて、我慢できなくて、漏れてしまった？
……はぁぁぁ〜っ。
ザコチンポ。期待はずれもいいところです。
少しは我慢できなかったのですか。
というか、我慢できないなら我慢できないで、イきそうとか、少しペースを抑えてとか、それくらい言えたのではないですか？
それなのに、遠慮なしに勝手にお漏らし。
……男としての魅力ゼロです。
はぁ……本当ならこの後坊っちゃんまに腰を振ってもらって、男として自信を付けさせてやるつもりでしたが……。
もういいです。
そのまま突っ立っててください。
坊っちゃんまのチンポ、私が勝手に使わせてもらいます。
オナラでお漏らしするような変態チンポには、そっちの方がお似合いです♡
デカ尻を振りたくって、乱暴に犯してやりますよ……ッ！♡

(ピストン開始)

ほら、どうですかッ♡
私のケツ穴で、チンポ扱かれるのは……ッ！♡
あは……っ！♡
あっ、コラッ！♡萎えるな……！♡
一発出した程度で萎えるチンポは、こうやって……！♡
ふうんッ！♡

(放屁)

ん……っ！♡

あは♡オナラで再度勃起させてやります……♡

あゝっ♡あゝうう～……ッ！♡

おほッ、おおおおお～……ッ！♡

んっく、ふうー……♡

坊っちゃんチンポ、オナラでビンビン……♡

あ～情けない♡

坊っちゃん、本当に情けなくて、気持ち悪いです♡

ほおら、メイドにこんないいように扱われて、悔しくないんですか？♡

少しは言い返したらどうなんですか～……？♡

んふふ……♡

ほらほらあ……ッ♡

もっと腰振り激しくしますよ……ッ！♡

んっく、ほおらっ！♡

ガキチンポに、私が本気の雌ピストンで喝を入れて差しあげます……！♡

あゝッ♡あゝはああ～……ッッ！！♡

(ピストン激しく)

おゝッ！？♡あはあッ！♡

坊っちゃんチンポ、また射精したあ……♡

気持ちよすぎて、ビュルビュルおもらし止まりませんねえ？♡

でも、萎えるなんて許しませんよ♡

チンポミルク吐き出す度に、私も……んぬウッ！♡

(放屁)

オナラぶちまけて、元気にして差し上げます……ッ♡

あゝっ！？♡ おおお……ッ！♡

あはあ……♡あう、んう～……♡

そろそろっ、私も、イきそうです……♡

だから……ッ！♡坊っちゃん……！♡

最後に、男らしいところを、見せてください……ッ！♡ ほおらっ、頑張って腰振って……♡

メイドのケツ穴になんか負けないでください♡
ほらっ♡がんばれっ♡がんばれっ♡
んひっ！？♡
そう、そうです、立派、立派でございます♡
おゝッ！♡おゝお……っ！♡
あはあ……♡あうう……っ♡
格好、いいですよ……♡
惚れ直して、しまいます……ッ♡
私は、知っていましたよ♡
坊っちゃんまは、やればできる子だってことお……ッ♡
あっ、イグ、イキます……ッ♡
くるっ、坊っちゃんまのピストンに、アナル痺れて……ッ♡
あはあ……っ！♡あゝッ、イ、ぐううう～～……ッ♡♡

(絶頂、放屁)

あゝッ……んぐッ……！♡
はあ……っ！♡
ううう～……はああ……♡
気持ち、いい……っ♡
あゝ～～～……♡

(数秒荒い吐息)

ふうう～……ッ♡
……坊っちゃんま、お見苦しいところをお見せして、申し訳ございませんでした。
みっともなく、弱々しい腰振りでしたが……最後のピストン、とっても格好良かったですよ？♡
流石は私の坊っちゃんまです♡
あ、おチンポが、勝手に抜けて……ッ♡
……んっ！♡

(引き抜かれると同時に放屁)

おほお……ッ！？♡
申し訳ございません……♡

勢い余って、オナラが出てしまいました……♡

……それで、坊っちゃん？♡

頑張ってくれたご褒美に、私から、プレゼントを差し上げたいのですが……よろしいですか？♡

……ふふ♡

もう、興奮しないでください♡

私の、とっておきのプレゼント……それは……♡

坊っちゃんがだあい好きな、特大ウンコでございます♡

モリモリとぶっといウンコを……おチンポの上にこんもりと、ひり出して差し上げます…
…ッ♡

坊っちゃんのザーメン浣腸で、既に準備万端ですから♡

ほおら、坊っちゃん……♡

ケツ穴ひくついているの、見えますか……？

んおッ！？♡

(放屁)

あは……っ♡

んふ……っ♡おゝ お〜〜〜〜……ッ♡

クソでるっ♡クソでるうう……ッ♡

坊っちゃん、見て、見てください、私のウンコ……ッ！♡

そこらの女じゃ太刀打ちできない、私特製のデカウンコッ♡

坊っちゃんのチンポの上に……思い切りい……んゝ ャ！♡

あゝ 〜〜〜〜……ッッ！♡♡

(脱糞)

ほおらっ、ほお〜らあ……ッ！♡

たあっぷりい……ひり出して差し上げますよお……♡ あゝ 〜〜〜〜ッッ♡

んッ、ほおおおおおお〜ッ！♡

出てるううう〜〜〜……ッ！！♡

私の、汚ったないウンコがあ……♡

んゝ ャ！♡あゝ はあ……っ！♡

坊っちゃんの、チンポに……ッッ！！♡

申し訳ありません、坊っちゃん……♡

クソ、まだまだ止まりません……！♡

埋める、埋めますね？ 埋めてしまいますね？♡

坊っちゃんまのチンポ、私のクソで、完全に埋めて差し上げます……ッ♡

ホカホカのウンコ、坊っちゃんまのチンポにまわりついてえ……マーキングッ！♡

あゝ あ〜〜ッ！♡

んひ、ひいい〜〜〜ッッ！♡

(脱糞終了)

はあ、はあ……ッ♡

出し切り、ました……♡

坊っちゃんま……私のウンコの感触、いかがでしたか……？♡

んふ、なあんて、聞くまでもありませんね♡

おチンポ、またバッキバキに勃起していますもの……♡

……そんなにチンポを膨らませては、街中を歩くことなどできませんね……？

ならばまた、メイドのクソ穴を、ご利用になれますか……？♡

……んふ♡

よわよわザコチンポのくせに、元気だけは人一倍ですね？♡

構いません、ド変態の坊っちゃんまの面倒を見て差し上げるのが私の役目。

さ、今度はみっともない腰振りではなく、立派な雄ピストンで、私を喜ばせてくださいね？

♡

ふふふふ……♡

◆【第四章】一流メイドの発情交尾

（数日後、リリィの自室にて）

あ〜ッ、ムラムラする……！

この時期は、いけませんね……普段にも増して、ココが、疼いてしまいます……ッ！♡
……チンポ。

坊っちゃんまのチンポ、欲しい……！

……そうです、前までは必死に堪えてきましたが、今となってはもう、我慢する必要などありません……♡

お尻を使ったセックスは済ませてしまったのですし、こっちの穴も、使ってもらわなくては……！♡

もう我慢、できません……ッ♡

坊っちゃんまのお部屋に、向かいましょう……ッ！

んふ、ふーっ、ふーっ、ふーっ……♡

（主人公の部屋をノック、断りなく扉を開く）

坊っちゃんま、失礼いたします……。

……おや？

（主人公のオナニーを目撃）

坊っちゃんま……♡

ふん、また性懲りも無く、オナニーですか……♡

まったく、立派なことです……♡

それで？

今日のおカズは……ふーっ、ふーっ……なんですか？♡

坊っちゃんまが所有されていた淫らな本は全て私が没収しましたし、なにか妄想して、チンポをシコシコと……んふっ、ふーっ……扱かれていたのでしょうか？♡

恥ずかしがっていないで、お教え下さい……！

私は、坊っちゃんまの歪みきったド変態性癖を知る、唯一の存在……今更何を恥ずかしがる必要があるのです♡

さあ……お教えください、坊っちゃんま……♡

……んふ♡やはりそうでしたか♡

まったく、坊っちゃんまは本当にどうしようもないド変態ですね♡

私のクソ姿、思い出してシコシコしていたのですね？♡

本ッ当に気持ち悪い♡

快感に浸る以外何の意味もない自慰行為に没頭するだけで愚かだと言うのに、オカズは私のウンコとききましたか♡

いいですか～？♡

初めて坊っちゃんに糞を見せて差しあげた時にもお教えしましたが、ウンコに射精しても子供は生まれないですよ～？♡

それに、子種はそう無闇に打ち散らすものではありません♡

女のココ……おまんこに、たあぷりと注ぎ込むものなのです♡

そんなこと、知ってる？

いいえ、分かっていませんね♡

坊っちゃんはまだまだお子ちゃまです。

ですから、私が一から教えて差し上げます……。

ふう……ふう……♡

……は？ 顔が赤い？

別に、発情してなどおりません♡

坊っちゃんが子種を無駄打ちしないように、ココで受け止めて差し上げようと思っただけです……！♡

ほおら、何を戸惑っているのですか。

目の前の雌に種付けできるチャンスですよ。

こんないい女は他にはいませんよ～？♡

安産型のデカ尻に、ミルクたっぷり出せそうなデカ乳、性欲煽り、性能抜群の、ドスケベボディです♡

何を戸惑う必要があるのです♡

抱いて、孕ませてやれば良いではありませんか♡

……は？

子供が出来たら、困る？

だから、責任が取れる年になるまで、しない……？

……最低。

意気地無し。

臆病者……ッ！

ふんっ！！♡

(主人公を押し倒す)

男ならっ、女の誘いを、断るなッ！♡

ほらっ、チンポで頭空っぽにしてぶち込んでしまえばいいんです……っ！♡
ふうっ、ふう〜っ……♡
ほおらあ、もう待ちきれません……ッ♡
メス穴ヒクヒクして、坊っちゃんのおチンポを求めています♡
ズブ濡れメスマンコ準備万端ですよっ♡
ほおら、デカケツ左右に振って、セックスアピールです♡ 坊っちゃん大好きなクソデカ乳もぶるんぶるんッ！♡って揺らして……♡
あゝ〜っ、もうダメえっ！♡
もう我慢できません……待てません……ッ！♡
坊っちゃんおチンポ、ハメますっ、チンポ挿れていただきます……ッ！♡
童貞、もらいますねえ……？♡
ふんゝッ！！♡

(挿入)

おゝ おおお〜〜……ッッ！？♡
あはああ〜〜♡
これこれえっ♡このチンポ♡
私のドスケベまんこにピッタリですよっ♡
子宮口、グリグリされてます……ッ！♡
んおゝ お〜〜……ッ！♡
あはあ……♡あはああ〜〜……ッッ♡
嬉しいです、坊っちゃん……♡
とうとう、坊っちゃん童貞を、奪ってしまいました……♡
どうですか？♡メイドまんこの感想は♡
おまんこのお味はあ……っ？♡
……は？
なんですか、その反応。
先日私のケツ穴で搾り取ってやった時よりも、反応悪くないですか？
まさか……え？
私の、濡れきった準備万端マンコよりも、クソ穴の方がいいと、そう言いたいんですか…
…？
……許せません。
本当に、最低です。
男としての器が小さいばかりか、挙句の果てには熟成メイドマンコを侮辱するなど、言語道断……！

……冗談、ですよ？

普段の私の態度に対する仕返し、ですよ？

本当はこれ以上ないほど気持ちいいんですよ？

クソ穴なんかより、よっぽど気持ちよくって、クソやオナラなんかよりもずっとずーっと興奮する……ですよ？

そう、そうに決まっています……！

……ッ！

そうです、試してみれば良いのです！

尻を垂れて、坊っちゃんまのチンポの様子を伺えば、自然と……ふんッ！♡

(放屁)

……え？

ば、坊っちゃん、なぜチンポをビクつかせているのですか……？

……先程よりも、あからさまに鼻息荒げて、チンポ跳ねさせて……。

……最ッッ低ッ！！

あ〜ッ、分かりました！

それならば、坊っちゃんのお望み通りオナラとクソを堪能させてあげます！

マンコはせいぜいオナホール！ オナラとクソを堪能するためのスパイスの一つとして楽しめば良いのです！

ほおら、オナラが顔面に降り注ぐように……ンッ、入れたまま、後ろを向いて……ふんっ、ふんッ ツツツツ！！♡

(放屁、高速ピストン開始)

おほっ！？♡

ほおらっ、どうですかっ？♡

高速ピストンでマンコをほじくりながら、お下品放屁っ♡

んほお……っ！♡

あゝ 〜〜〜〜……ツツ♡

ふんゝ っ、ふうんっ！♡

(放屁)

あはあ……♡あはああ〜〜……ッ♡

おほっ！？♡ おほおおおお〜〜……ツツ♡

やばっ、これヤバすぎます……！♡
汚ったない声出るっ、下品な声出るう……ッ！♡
んおゝ お〜〜……ッッ！！♡
ふんゝ っ！♡

(放屁)

ほおらっ、バスバス腰打ち付けて、全力ピストンッ！♡
ほお〜、らッ！♡

(放屁)

おゝ おお……っ！？♡あゝ 〜〜〜……ッ！♡
あはっ、あははは……ッ！♡
んっ、チンポ震えて……もう出ますか？♡
精液、出そうですかっ？♡
あは……ッ！♡いいですよお……♡
出して、ください……！♡
私も、一緒に……クソを、出して差し上げます……ッ！♡
んっ、ふんゝ ッ！！♡

(放屁)

ウンコオカズにして、私を孕ませてください……ッ！♡
坊っちゃんにとって、本命はメイドのウンコなのでしょう？♡
ならば、私をそのついでで、孕ませてください……ッ！♡
おほっ！？♡
おほおおお〜〜〜……ッッ！？♡
イグううううぐ〜〜〜……ッッ！！♡
ぐるっ、でっかいアクメとウンコくるっ、くるううぐ……ッッ！！♡
坊っちゃんまッ！♡
出ますッ、ウンコ出ますッ♡
坊っちゃんも……ッ、ザーメンッ、出せッッ！♡
おッッほおおおおお〜〜〜……ッッ！！♡

(脱糞)

あゝ~~~~~……ツツツ！！♡

ふううゝ うゝ うう~~~~……ツツツ！♡

ふう〜っ、ふ~~~~っ……！♡

あは……♡あはは……ッ！♡

見てください……坊っちゃん、私が出したクソが……坊っちゃんのお体に……ッ！♡

あはあ……っ、坊っちゃんの体に、私のウンコ、ウンコぶっかけてますう……っ♡

んふふ……♡

あ〜、いい気分です……ッ♡

ふん……マンコより屁や糞を好むド変態の坊っちゃんは、そうして私の糞に敷かれてよが
っていれば良いのです……！♡

ふうう~~~~……♡

満足しました……♡

ん……んほッ！？♡

(引き抜く)

ふーっ……坊っちゃん、沢山出されたのですね……っ♡

汚い音を立ててゴブゴブとザーメンが漏れております……♡

はあ……こんなに出して、妊娠してしまったらどうするのです？♡責任、取ってくれるので
すか？♡

なあんで……ふふふ♡

心配しなくても、坊っちゃんにそんな甲斐性は求めておりません♡

避妊薬を飲んでおりますから、心配する必要はありませんよ♡

ですが……

(囁き)

明日の夜、私の寝室へお越しください♡

坊っちゃんに大事なことを、お伝えいたします♡

ふふふふ……♡

(囁きここまで)

【第五章】一流メイドの強制婚約交尾

(翌日、主人公、リリィの部屋をノック)

坊っちゃんですか？
どうぞお入りください。

(扉を開ける)

約束通り、よく来てくれましたね。
ココアを用意しております、どうぞお飲みください。
さ、ベッドに腰かけてくださいませ。
私と、お話をいたしましょう？
……単刀直入に言います。
坊っちゃん……私と、結婚してくださいませ♡
いきなりこのようなことを申し上げて、驚かせてしまい申し訳ありません。
ですが、坊っちゃんも薄々分かっていたはずですよ。
普通、好きでも無い男に自分の糞や屁の香りを嗅がせたり、ましてやセックスなどしませんよ？♡
それに……んふ♡

(服を脱ぐ)

(甘く囁く)

ほおら、ご覧ください、私のカラダ……♡
坊っちゃんの記憶にある、過去の私の体……それと、比べてみてください♡
まずは、このデカ乳♡
以前より坊っちゃんの視線を奪っていたこの魔性の乳肉は……さらに、大きく……っ♡
乳輪もより大きくなって……乳首も、しゃぶりがいのある立派なものへと成長いたしました♡
巨乳の域を容易に超えた……まさしく爆乳と呼ぶべき代物です♡
そして、キュッとくびれた腹とは相反するように、ムッチリと肉付きがよくなった尻肉……♡
坊っちゃんがだあい好きなこのデカケツは……さらにムチムチと、よりオス好みの下品なものに仕上がりました♡
でっかいウンコをひり出すために、このアナルも以前よりさらに肉厚に♡しかも、坊っちゃん

まがお好きなドスケベ縦割れケツマンコへと進化いたしました♡
おっぱい、おしり、アナル……それもこれも全て、坊っちゃんにより愛してもらうために、
丹精込めて、より淫らに拵えたのです♡
変化したこの体が、坊っちゃんを愛している何よりもの証拠なのです♡
(甘く囁きここまで)

……坊っちゃんに対する、わたくしの思い♡
ご理解いただけましたか？♡
次は……坊っちゃんの番です♡
坊っちゃん♡恥ずかしがらずに仰ってください♡
もちろん、坊っちゃんが私のことを大大大だーい好きなのは存じ上げております♡
だって、坊っちゃんのド変態の性癖に応じて差し上げられるのはこの私だけ♡
将来妻となることは確定しているようなもの♡
ですが、それでもやはり……坊っちゃんの口から、お聞きしたいのです♡
さ、坊っちゃん♡
私に対する思いを、口にしてくださいませ♡
結婚して欲しいと……可愛い告白を、私にお聞かせくださいませ……ッ！♡
………は？
今、なんと？
結婚は、できない……？
何を仰っているのです？
私と坊っちゃんは、両思いで……！

(ベッド横の机から婚姻届を取り出す)

ほ、ほらっ！
私は既に婚姻届も書き終えているのですよ！？
なんの問題があるというのですかッ！
……え？
年の差や、立場の違いがある……？
………ふうん、そうですか……。
坊っちゃんは、そんなことが理由で、私を受け入れてくださらないのですね……？
私は、ここまで坊っちゃんに尽くしているというのに、それでもなお……ッ！
……かしこまりました。
それでは、強硬手段をとらせていただきます。
……坊っちゃんが結婚に応じてくれないのであれば、私とのこれまでの変態的なプレイの

数々を、他のメイドや坊っちゃんまのご友人に、事細かにお話しする他ありません。
そして……坊っちゃんまを社会的に抹殺して、私以外に頼れる者がいない状態にして差し上げます。

……本気か、ですか？

ええもちろん、私は本気です。

それが嫌なら、私と結婚してくださいませ。

私と結婚するか、どうしようもない状況になるか……どちらを選ぶ方が利口か、賢い坊っちゃんまなら、お分かりですよね……？

さ、お答えください♡

私と、結婚しますね……？

(主人公、渋々結婚を了承)

……は？

なんですか、その態度。

私と結婚することを選んだことは利口です。

ですが、その態度が気に入りません。

嫌そうに、渋々……。

分かりますか？

私は、意気地無しの坊っちゃんまのために、ここまでお膳立てして差し上げているのです。

私のことが好きで好きでたまらないはずの坊っちゃんまが、年の差や立場を理由に逃げようとするから……このように、結婚するちょうどいい理由を作ってやったのです。

それなのに、なんですかその態度は……ッ！

それではまるで、私のことが好きではないと、嫌いだけど仕方ないから結婚すると、そう言っているようではありませんか……ッ！

……ならもう、いいです。

んッ、ふうっ！

(押し倒す)

私がどれだけ魅力的な女なのか、改めて分かせてやります♡

坊っちゃんま、どうか最後まで死なずに着いてきてくださいね？♡

オラ、こっち向け……ッ！♡

ねちっこいキスで、チンポおっ立たせて差し上げます……！♡

(激しいディープキス)

じゅっ、ぷはっ！♡

ふふ……チンポ、ちゃんと勃起していますね……いい子です……♡

ズボン、脱がせて……ッ♡

チンポを、坊っちゃんをだあい好きな、私のアナルへと、あてがって……ッ♡

……坊っちゃん？♡

改めて、お伝えいたします♡

私と、坊っちゃんの相性は、抜群なのです♡

フェチシズムでも、体でも♡相性抜群な坊っちゃんと私は、結ばれるべきなのです♡

……さ、入れますよ♡

ほおら……っ、ふ、ウ”うう～～～……ッッ！♡

(アナル挿入)

あゝ～～～……ッ！♡

あはっ、あはははははははははっ！♡

入って、きたっ！♡

あはあっ、んあっ……！♡

坊っちゃんの、チンポっ、私のクソ穴にいいッ！！♡

ほおら坊っちゃん♡

私が抱きしめやすいように、私の乳肉の狭間……♡

ふっかあ～いおっぱいの谷間に、顔を突っ込んでください♡

谷間に籠った濃厚な雌フェロモン嗅いで、更にチンポバキバキにしてください……っ♡

ほら、ぎゅ～～～っ！♡

んふ、坊っちゃんのチンポ、ビクビクしてますね……ッ♡

あまあ私のフェロモン嗅いで、興奮止まりませんね？♡

更にチンポ大きくなって、私のクソ穴とぴったりフィットして……んんんッ！♡

(激しいピストン)

ふんゝッ！♡おほっ！？♡

あはっ、あははっ！♡

やっベッ、腰が、勝手に動いてしまいますッ♡

ふんっ、ふっ！♡

坊っちゃんのチンポがあ……っ、私のアナルにズボズボッて入ってッ、んおおゝっ！♡ズルズル、抜けてッ♡

あはああ〜〜〜……ッッ！！♡
んふううぐう〜〜〜……ッ！♡
好きッ、好き好きッ！♡
好きです坊っちゃんま……っ♡
おほおおっ、あはっ♡
好き好きっ、好きすぎてやばいっ♡
あはあんっ、んふううぐう〜〜〜ッッ！！♡

(放屁)

オナラっ、漏れるっ♡
坊っちゃんまの先走り汁と、私の腸液で泡立った、汚ったない水気オナラっ♡
んお お〜〜〜……ッ！♡匂いも、エグいですッ♡
ふんッッぐううぐう〜〜〜……ッッ！！♡

(放屁、射精)

……は？♡
何勝手にびゅっびゅしてるんですか……っ♡
女に腰振らせて、お漏らし射精とか……！♡
私のクソを孕ませる気、あるんですか……？♡
少しはやる気出してくれないと、困ります……ッ♡
坊っちゃんま、少し苦しいかもしれませんが、坊っちゃんまが悪いんですから、我慢してくださいね……ッ！♡
むっ、ぎゅうう〜〜〜……ッ！！♡
坊っちゃんまを、さっきよりも強く、乳肉の中に閉じ込めてえッ♡
私の爆乳で、窒息させて、差し上げます……ッ！♡

(ピストン再開)

あはっ♡
もがいてるもがいてる♡
でも坊っちゃんまの力じゃ、私を振り払うなんて、出来ませんね♡
んふふ……っ♡
どうされました？ 坊っちゃんま♡
息しづらくて……苦しいですか？ 辛いですか？

それなら……！♡

(囁き)

坊っちゃんの方からも、腰、振ってください♡

坊っちゃんの方からかっこいいピストンされたら、嬉しくてつい抱きしめる力弱くなっちゃうかも……♡

そしたら、呼吸くらいはできますよね？♡

だからほら、腰振ってください♡

私のクソ穴に、チンポをズボズボって出し入れしてください……？♡

……このままだと、本気で乳肉で窒息させて、殺してしまいますよ？♡

(ここまで)

あはっ、あはははっ！♡

必死にヘコヘコ腰動かしてるっ♡

可愛いっ、可愛いですよ坊っちゃん……ッ！♡

ほおらっ！♡もっと激しく腰を打ち付けてッ！♡

んおゝ お～～ッッ！！♡

ああんっ、坊っちゃんあっ♡

これいいっ♡

一緒に、タイミング合わせて腰振ってっ♡

まるで、愛し合う、夫婦みたいですっ♡

んふ……っ、坊っちゃん♡

愛していますよ♡ずっと、ずう～っと……♡

んおおッ！？♡おっほッ！♡んおゝ お～～～……ッ！！♡

坊っちゃんのチンポ、ビクビクしてっ♡

あはああ～ッ！♡また、出そうなんですか？♡

もう限界ですかっ？♡

いいんですよ、出しても……っ！♡

私のクソ穴の中に、たくさん中出ししてくださいねっ♡

ほおら、ほらほらっ！♡

ふんゝ ッッぐうううううう～～～ッッッ！♡

(射精、放屁、絶頂)

ふううう”う～～ッ♡ふううう”う～～～……ッッ！♡

んおゝ お……ッ♡

また、出てるッ……！♡
クソ穴に、中出し、されてるっ♡
あはあんっ、あはああ〜〜〜……ッッ！！♡

(放屁)

おほっ！？♡
んふふ……ザーメン逆流して、私のアナルから噴き出していました……♡
でも、まだまだ私は満足していません♡
さ、坊っちゃん♡
続き、しましょう？♡
……へ？
もう、限界……やめてくれ？
何を言ってるんですか？♡
こんなもので、へばってもらっては困ります♡
それに、私が欲しい言葉は『限界だからやめてくれ』なんてものではありません♡
私が何を言って欲しいのか分かるまで、延々と搾り取って差し上げます♡
さ、もう一度、いきますよ〜……♡
んおッ！♡おッ、おッ、おッ、おっおッ！♡

(喘ぎ声 15 秒ほど)

(数時間後)

はあッ、はあッ、はあッ♡
んっ、くううッッ！♡

(射精)

んふふ……これで、5 回目ですか？♡
坊っちゃんのお金玉も、もう限界ですかね？
4 回目の途中から私がマッサージをしてお手伝いをさせていただきましたが、それでももう限界のようですね？♡
……坊っちゃん♡
そろそろ、分かったのではありませんか？
私が、坊っちゃんにどんな言葉を向けて欲しいのか……♡
……んふふ♡

さ、教えてください♡
坊っちゃんま……私に、その言葉を、教えてください♡
……～っ♡
そう、そうです、その言葉が欲しかったのです♡
坊っちゃんま、ようやく分かりましたね♡
私が言って欲しい言葉が……っ！♡
『結婚して欲しい』……ふふ、大正解です……！♡

(囁き)
でも、告白の言葉だけでは、まだ足りませんね♡
……んふ♡
プロポーズの時、言葉だけを贈る訳ではありませんよね？♡
もちろん、指輪をくれと言っている訳ではありません♡
大事なものは、想いです♡
そして、坊っちゃんまの想いが最も詰まったものを、私は知っています♡
……ね、坊っちゃんま♡
告白特濃ザーメン……坊っちゃんまの愛情で、限界まで私のケツ穴を満たしてください……
♡
(囁きここまで)

さあっ、最後のひと踏ん張りですっ！♡
あっ、こらっ！♡
気を失うなっ！♡
おきろ、起きろっ！♡
お嫁さんを放っておかないでくださいっ！♡
んもう、しょうがないですね♡
ふっかあ～いベロキスで、気を失う暇すらないようにしてあげますっ♡
んちゅう～～～……ッ！♡

(ディープキス 15 秒ほど)

んふ♡
ザーメン上がってきましたか？♡
さ、ください♡
告白ザーメンください♡
ザーメンタンク空っぽになるまで、射精しまくってくださいッ！♡

おら、好きって言え、好きって言いながら射精しろっ！♡
……あは♡
私も好きッ♡ 好きッ♡ 大好きッ♡
んちゅ、むちゅっ……っ！♡
好き、好きです坊っちゃん……っ！♡
愛してます、心の底から、愛しています……ッ！♡
あはッ、でますね、ほら、ぎゅってするんです♡
お嫁さんに種付けする時は、ぎゅ～って抱きしめて、腰を振るんですよ♡
まったく、こんなことも分からないなんて、やっぱり坊っちゃんは、私を妻にするしかありませんね……♡
優しメイドくらいしか、坊っちゃんを愛してくれる人はいませんよ～……？♡んふふふ
……っ♡
さ、坊っちゃん♡
しい～っかり私の中に、全部注ぎ込んでくださいね？♡
んおおッ、私、もッ♡
弱々しい坊っちゃんの腰振りで、幸せアクメ、キめますっ！♡
一緒に、イきましょうね、坊っちゃん♡
……ッく、イク、うううう～～ッッ！！♡
あはっ♡あはははッ♡
坊っちゃん、大好きいいい～～～ッッ！♡♡

(絶頂、射精)

はあ～……っ♡んふ、ふう～～……ッ♡
出て、いますね……♡私のケツ穴に、たあくさん……ッ♡
ああん……っ♡幸せですう～……っ♡
……おや？♡

(失禁)

んふふふ♡
チンポ、壊れてしまいましたか？♡
確かに、全部注ぎ込んでくださいますと言いましたが……んふふ♡
おしっこまで漏らすなんて、本当に坊っちゃんはお子様ですね♡
……でも、そんなところが、大好きですよ？♡
んふふふ……♡

(引き抜き)

んっ、はぁ……ッ♡

坊っちゃんまの愛、確かに受け取りました♡

お腹の中、坊っちゃんまのザーメンとおしっこでたふたぶです……♡

そのせいで……んんッ♡

(腹痛)

奥の方から、告白のお返事……ッ♡

うんこが、出てきそうです……ッ！♡

あはあんっ、出ちゃいますっ♡

坊っちゃんまのザーメンとおしっこで作られた、特性浣腸液でッ、ぶっといウンコが……ッ！

♡

(放屁)

ふんゝ うううう〜〜〜ッッ！！♡

おほっ、んほおお〜〜……ッッ！！♡

はぁぁ……ッ！♡

んふ、ふふ……っ♡

ほお〜ら坊っちゃんまあ？♡

坊っちゃんまのチンポに、私のウンコで、マーキングして差し上げます♡

んおっ♡ほっ、ほおッ！♡

ふんっ、んほッ♡

でる、でますっ♡

坊っちゃんまのチンポに、ラブラブ溺愛メイドウンコが、出ちゃいます……ッ！♡

(放屁)

ンおゝ お〜〜〜……ッッ！！♡

おほッ！♡おほオ〜〜……ッ！！♡

坊っちゃんまっ、どうか末永く、私を愛してくださいね……ッ？♡

ふンンンンンンッッッ！♡

ふんッ、ンお、おゝ 〜〜〜〜〜ッッ！！♡

(脱糞、放尿)

オウウン……っ♡

おッ、お〜〜〜……ッ！♡

んん……ッ♡ほお〜〜……っ♡

……んっふふ♡

私のぶっというンコがあ……坊っちゃんまのチンポにい……♡

ねっとりと、マーキングう……ッ♡

私の旦那様だって、たっぷりニオイ付けちゃってますう……ッ♡

んおっ♡まだまだ出そうです……っ♡

ふんッ！♡ほお〜〜〜ッッ！♡

(脱糞)

おゝ おッ！♡おゝ お〜〜〜ッッ！！♡

んん……ッ♡はあ……っ♡んお〜〜……っ！♡

見てください坊っちゃんまん♡

私のウンコに、坊っちゃんまにお出しいただいたザーメンが、絡みついております……ッ♡

まるで、私と坊っちゃんまの未来のようですね♡

ねっとり絡みついて、離れることの無い幸せな未来♡

一生、一緒ですよ♡

坊っちゃんまん♡

んふ、んふふふふふふ……ッ♡

だあいすきい……ん、ちゅ……♡

(ディープキス 15 秒ほど)